

074 嵐(突風)を静める

マルコによる福音書 4 : 35~41、マタイによる福音書 8 : 23~27、ルカによる福音書 8 : 22~25

35 その日の夕方になって、イエスは、「(静かに休むために) **向こう岸に渡ろう**」と弟子たちに言われた。
→向こう岸=ゲラサ人の地方 (マルコ 5 : 1) =ゲルゲサ (ガダラ、ゲルゲザ)

36 そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。
37 激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。
→ガリラヤ湖はすり鉢状のため、風の通り道となり、このような激しい嵐 (突風) がたびたびあった。

38 しかし、イエスは艫 (→とも：船尾) の方で枕をして眠っておられた。
弟子たちはイエスを起こして、

「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。
39 イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「**黙れ。静まれ**」と言われた。すると、風はやみ、すっかり風になった。
→静まれ：フィモオウ (ギリシア語) で「口輪をはめる」「口を封じる」という意味。

40 イエスは言われた。「**なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。**」
→聖書協会共同訳：「なぜ怖がるのか。まだ信仰がないのか。」
口語訳：「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」

新改訳：「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」

リビング・バイブル：「どうしてそんなにこわがるのですか。まだわたしが信じられないのですか。」

回復訳：「なぜそんなに臆病なのか？信仰のないのはどうしたことか？」

41 弟子たちは非常に恐れて、「**いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか**」と互いに言った。

→詩編 89 : 9~10 万軍の神、主よ／誰があなたのような威力を持つでしょう。主よ、あなたの真実は／あなたを取り囲んでいます。あなたは誇り高い海を支配し／波が高く起これば、それを静められます。

→詩編 107 : 29 主は嵐に働きかけて沈黙させられたので／波はおさまった。

【参考】 艫、舳

艫 (とも) 船の後部。船尾。⇔舳 (へさき)。

→舳艫千里 (じくろせんり)

集団で航行する船が延々と続くさま。果てしなく連なる船団のこと。船首と船尾がくつつくような形で、船が果てしなく連なって航行していること。

【参考】 ヨナ書 1:5~6

船乗りたちは恐怖に陥り、それぞれ自分の神に助けを求めて叫びをあげ、積み荷を海に投げ捨て、船を少しでも軽くしようとした。しかし、ヨナは船底に降りて横になり、ぐっすりと寝込んでいた。船長はヨナのところに来て言った。「寝ているとは何事か。さあ、起きてあなたの神を呼べ。神が気づいて助けてくれるかもしれない。」

